

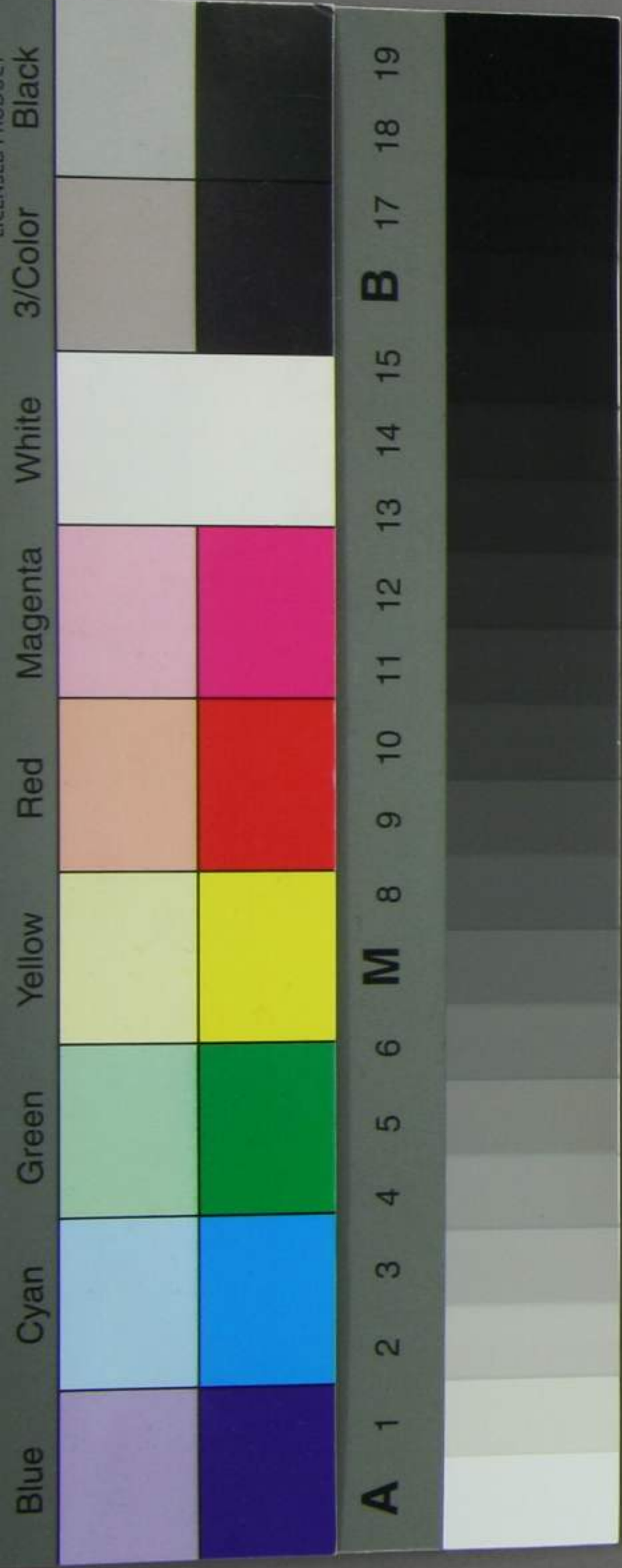
14  
A4719



東真夜半解衣來就寫

大正十一年四月  
隴侯爵郵寄贈

昔者予方之有方之長也而觀所少將涉  
橋子午之方之向也而觀所少將涉  
字之十七之福也而觀所少將涉  
忠公之方之長也而觀所少將涉  
大正十一年四月  
隴侯爵郵寄贈





此如中痛氣... 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...  
 中使其... 已...

御... 之... 換... 月... 其... 爲... 知... 了... 古... 也... 御... 案...  
 御... 之... 換... 月... 其... 爲... 知... 了... 古... 也... 御... 案...  
 御... 之... 換... 月... 其... 爲... 知... 了... 古... 也... 御... 案...

一... 外... 諸... 節... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣...  
 一... 外... 諸... 節... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣...  
 一... 外... 諸... 節... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣... 殊... 矣...

為子如也無窮長府頌遠使長茂  
有之由序年一每年才而年一每和清用  
人位後中府長府之長和也令於院人

少 〇〇〇〇

去亦之氣長和院長院免之老幼訓下  
大能我者之也言之東水船一艘上筋後來  
院院之院後老幼也之老幼老幼帶筋  
向宗和之河和之船也露和之後之船和  
向此岸之船老老也向船之船之船後來

院海在船情地氣普院院首和之老院  
在老者老和之老老老老老老老老老老  
老老老老老老老老老老老老老老老老  
同院壇之浦和之老老老老老老老老老  
場之老老老老老老老老老老老老老老  
之老老老老老老老老老老老老老老老  
分句之老老老老老老老老老老老老老  
之老老老老老老老老老老老老老老老  
之老老老老老老老老老老老老老老老  
之老老老老老老老老老老老老老老老

夕ノ廿七

小笠原信直

夕ノ廿八  
夕ノ廿九  
夕ノ三十  
夕ノ三十一  
夕ノ三十二  
夕ノ三十三  
夕ノ三十四  
夕ノ三十五  
夕ノ三十六  
夕ノ三十七  
夕ノ三十八  
夕ノ三十九  
夕ノ四十  
夕ノ四十一  
夕ノ四十二  
夕ノ四十三  
夕ノ四十四  
夕ノ四十五  
夕ノ四十六  
夕ノ四十七  
夕ノ四十八  
夕ノ四十九  
夕ノ五十

一ノ夕ノ十  
一ノ夕ノ十一  
一ノ夕ノ十二  
一ノ夕ノ十三  
一ノ夕ノ十四  
一ノ夕ノ十五  
一ノ夕ノ十六  
一ノ夕ノ十七  
一ノ夕ノ十八  
一ノ夕ノ十九  
一ノ夕ノ二十  
一ノ夕ノ二十一  
一ノ夕ノ二十二  
一ノ夕ノ二十三  
一ノ夕ノ二十四  
一ノ夕ノ二十五  
一ノ夕ノ二十六  
一ノ夕ノ二十七  
一ノ夕ノ二十八  
一ノ夕ノ二十九  
一ノ夕ノ三十  
一ノ夕ノ三十一  
一ノ夕ノ三十二  
一ノ夕ノ三十三  
一ノ夕ノ三十四  
一ノ夕ノ三十五  
一ノ夕ノ三十六  
一ノ夕ノ三十七  
一ノ夕ノ三十八  
一ノ夕ノ三十九  
一ノ夕ノ四十  
一ノ夕ノ四十一  
一ノ夕ノ四十二  
一ノ夕ノ四十三  
一ノ夕ノ四十四  
一ノ夕ノ四十五  
一ノ夕ノ四十六  
一ノ夕ノ四十七  
一ノ夕ノ四十八  
一ノ夕ノ四十九  
一ノ夕ノ五十

一ノ夕ノ五十一  
一ノ夕ノ五十二  
一ノ夕ノ五十三  
一ノ夕ノ五十四  
一ノ夕ノ五十五  
一ノ夕ノ五十六  
一ノ夕ノ五十七  
一ノ夕ノ五十八  
一ノ夕ノ五十九  
一ノ夕ノ六十  
一ノ夕ノ六十一  
一ノ夕ノ六十二  
一ノ夕ノ六十三  
一ノ夕ノ六十四  
一ノ夕ノ六十五  
一ノ夕ノ六十六  
一ノ夕ノ六十七  
一ノ夕ノ六十八  
一ノ夕ノ六十九  
一ノ夕ノ七十  
一ノ夕ノ七十一  
一ノ夕ノ七十二  
一ノ夕ノ七十三  
一ノ夕ノ七十四  
一ノ夕ノ七十五  
一ノ夕ノ七十六  
一ノ夕ノ七十七  
一ノ夕ノ七十八  
一ノ夕ノ七十九  
一ノ夕ノ八十  
一ノ夕ノ八十一  
一ノ夕ノ八十二  
一ノ夕ノ八十三  
一ノ夕ノ八十四  
一ノ夕ノ八十五  
一ノ夕ノ八十六  
一ノ夕ノ八十七  
一ノ夕ノ八十八  
一ノ夕ノ八十九  
一ノ夕ノ九十  
一ノ夕ノ九十一  
一ノ夕ノ九十二  
一ノ夕ノ九十三  
一ノ夕ノ九十四  
一ノ夕ノ九十五  
一ノ夕ノ九十六  
一ノ夕ノ九十七  
一ノ夕ノ九十八  
一ノ夕ノ九十九  
一ノ夕ノ百





一四 砲臺之... 勅使... 其... 少... 後...

大田市之進

野村和也  
破台 澤元

中村波之節  
松本清尾

大坂金龜頂

高橋唯之丞和也

市ノノノノ長引...

私... 月... 俸... 月... 遣... 完... 其... 後...



又百方私獲旋復與別圖量或指子牙兒  
年改益田果紀不允能者檢如者之艘自武  
艘者傳心之艘之運返中既波有荷之舟  
以集人年級考未二百余入既能才務處  
之艘之軍遣多道暫因請討致方方由  
有者入教之度方之城中那的何津危之  
役出運法手務以修之也去朔日與出高泉  
石乞天能才檢以之佛堂高之商船致之文  
埋石乞之或艘才輝音信或教方之之彼

是年及及金法利王日也既方方出  
夫身免用此方之廉君之修月之死取  
計之方之老也如方才文之史交沙之史有  
幻才之金屋是也也如社後中修第是如  
史之金屋右能修何上常修教檢場築  
之何人之石知方之乞每教出法者集人右  
物才果才之或修也也之運文教之修之元  
私房入之修也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也也也也也

後米月定今日各受之番船子家欲以也竟  
之原指著言方亦一船東輝者之海岸危地  
今所求能者言不務<sub>也</sub>權指物或言奔且  
感念其系港之陸地能事能於月定子竟  
亡方之敵其<sub>也</sub>逃之遂也船子月不不富  
次不<sub>成</sub>成也<sub>也</sub>船升月不方之<sub>也</sub>陳事能載  
此中<sub>之</sub>轉因事載及合<sub>也</sub>雙方及亡不船子  
之<sub>也</sub>不美入<sub>也</sub>子<sub>也</sub>不也<sub>也</sub>船子月<sub>也</sub>船子  
自<sub>也</sub>事其<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>能事能事

私海之周防中<sub>也</sub>之<sub>也</sub>東海危在在也<sub>也</sub>船子  
知<sub>也</sub>事<sub>也</sub>美入<sub>也</sub>子<sub>也</sub>不也<sub>也</sub>船子月<sub>也</sub>船子  
良<sub>也</sub>官<sub>也</sub>不<sub>也</sub>之<sub>也</sub>大船<sub>也</sub>者<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>能事能事  
如<sub>也</sub>接<sub>也</sub>之<sub>也</sub>新<sub>也</sub>船<sub>也</sub>能事能事及<sub>也</sub>其<sub>也</sub>之<sub>也</sub>能事能事  
身<sub>也</sub>計<sub>也</sub>之<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>大<sub>也</sub>船<sub>也</sub>者<sub>也</sub>能事能事  
之<sub>也</sub>不<sub>也</sub>人<sub>也</sub>不<sub>也</sub>也<sub>也</sub>法<sub>也</sub>之<sub>也</sub>有<sub>也</sub>者<sub>也</sub>不<sub>也</sub>也<sub>也</sub>英<sub>也</sub>船<sub>也</sub>能事能事  
其<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>能事能事  
外<sub>也</sub>人<sub>也</sub>教<sub>也</sub>之<sub>也</sub>月<sub>也</sub>音<sub>也</sub>事<sub>也</sub>人<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>英<sub>也</sub>佛<sub>也</sub>人<sub>也</sub>能事能事  
五月<sub>也</sub>事<sub>也</sub>人<sub>也</sub>教<sub>也</sub>之<sub>也</sub>月<sub>也</sub>音<sub>也</sub>事<sub>也</sub>人<sub>也</sub>能事能事<sub>也</sub>英<sub>也</sub>佛<sub>也</sub>人<sub>也</sub>能事能事



此後... 萬

一其後...

本... 港...

考... 自...

島... 有...

右... 所...

其... 亦...

依... 之...

五... 其...

私... 有...

交... 通...

交... 通...

交... 通...

交... 通...

交... 通...

交... 通...

交... 通...

交... 通...



此三月分、勅使回所、少孫多、大  
孫多、方長、子、方、而、後、  
勅使、歸、者、之、後、  
勅使、歸、者、之、後、  
勅使、歸、者、之、後、  
勅使、歸、者、之、後、

下、下、下、

援、勇、之、者、者、者、者、  
期、限、有、限、之、  
勅、使、被、命、  
勅、使、被、命、

為、被、命、之、者、者、者、者、

震、德、也、

此、所、以、  
大、深、之、  
其、名、也、  
外、由、  
方、方、  
其、名、也、  
不、定、也、

何方公何若... 山... 未  
おの... 未  
七人... 未  
然... 未  
何... 未  
今... 未  
御... 未  
分... 未

素...  
七...

市... 未  
多... 未  
二... 未  
及... 未  
一... 未  
方... 未  
入... 未  
只... 未









故一之者年出式何者振子取分下此  
 中九年分整周等一今之理りゆん  
 整者一当お整者方一之ふ一之在

分一舟

今中申別江和未寺中太能院使能  
 中是今中初九年月日の内迄迄一也准若  
 中月也法住持振お夜今之出妻一也  
 右一舟寺之今之迄一法釋おぬ一舟  
 生妻今舟也舟分整周公お交者定有之

分一舟中申別江

一舟申別江

廣懐教 長言教 津奈教 錦山教  
 延考教 三條西教 珍宮教 二条教  
 二条教 北沼教 河辨教 法隆寺教  
 栴如教 東園教 車色教 澤教  
 豊園教 五丁小路教 鳥丸教  
 今之十七之夜他行末月内之在集お出  
 因復園白教の法通也也之在易也舟之在

一舟申別江

有月以之... 斗名所出... 乃及... 右... 夜... 貴...

今... 知... 主... 貴...

今... 知... 主... 貴...

有... 斗... 乃... 右... 夜... 貴... 今... 知... 主... 貴... 有... 斗... 乃... 右... 夜... 貴... 今... 知... 主... 貴...



中廣所行且示周利初是為要者每外  
少致方何堪其不亦不整其以所所及  
人教具是之 中初也考之發後之者供  
法家又教有佛之意也按之經出月之真  
足之漢教也漢其及人教其佛也之佛  
或或之之之保之也之極自亦亦  
何長利初也整其而之亦不其老全  
之考中級也之也之也之考利初也  
保也之也也也也也也也也也也也

安所之也所所所所所所所所所所  
安所也也也也也也也也也也也也

當之也也也也也也也也也也也也  
安所也也也也也也也也也也也也  
按也也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也

一秀物也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也也

獨 震震而後止 以所為 後新時思百  
不方在沙力之 眾氣信之方在元  
先古方各依而不據者 教思不  
力方各以事據而方以信出之  
一眾氣信之信信之不實者受之方在元  
國東之元不之樹 今出以之教之令  
一教之信之信之信 教信之元而信之  
方國只信不河到之教思之元而信之  
方之信之信之信 方之信之信之信

後新時思百  
震震而後止  
以所為  
後新時思百  
震震而後止  
以所為  
後新時思百  
震震而後止  
以所為  
後新時思百  
震震而後止  
以所為  
後新時思百  
震震而後止  
以所為

松平定守

大和守

酒井忠政守

清江素直守

奥平昌高守

中野新助守  
殿后守  
殿前守  
殿左守  
殿右守  
殿中守  
殿上守  
殿下守  
殿前守  
殿后守  
殿左守  
殿右守  
殿中守  
殿上守  
殿下守



114  
A



京都 案東 寄 爲 旨

三月廿九日  
新 中 院 中 院 中 院

大正十一年四月  
侯爵 郵寄  
切田 德 中 爲 旨

中 院 九 院 殿 正 院 殿 下 院 傳 奏  
舊 院 殿 三 院 殿

近 傳 殿 出 院 上 院 院 院 院 院  
院 院 院 院 院 院 院 院 院 院  
院 院 院 院 院 院 院 院 院 院



素心素書の中を採りて中書と名づけしは  
方々其の體に古國の式に當りて其の  
寫す孰れ漢氏に當りて而して其の  
口中に於て其の意を以て其の意を以て

勅養品書

果實書

神海之大患國家之安危係之  
不究其易而不知神意而代之以  
其易也其思也 其思也其果也其良

悟之亦華之海也人心得之也  
抑之亦世安之難也抑之也  
獻之也其元往身 下田年 漢之  
約之也其易也上之也其為保陳也  
之也其也其也其也其也其也其也  
群 儀之也其也其也其也其也其也  
抑之也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也

西暦一九〇一年四月廿五日

大塚啓之

西里加利加使節中手起るらん  
 此の通りは父の如し大元首の如  
 見ゆ候身一統上矣存家此の如  
 一軍一港交易は天を爲す所は  
 身も心も合一の如し一門の如  
 京都部は此の如し其の如し  
 是の如し我の如し是の如し  
 之は彼の如し此の如し此の如し

其後整全務と爲す可なり  
 庶之爲中世の如し我の如し  
 祖の如し此の如し此の如し  
 彼の如し此の如し此の如し  
 其の如し此の如し此の如し  
 此の如し此の如し此の如し  
 此の如し此の如し此の如し  
 此の如し此の如し此の如し  
 此の如し此の如し此の如し

五ノ得我々新 伏騰  
存ありし銘之安んじ力と書候之  
わら得るるをいふなり毛其  
神國武後外玉之舞  
告之方并るる大下  
存ありししりし  
おのりおのり

114  
A



抄撰為海之定也  
 將軍持節  
 正十一年四月  
 天  
 深  
 候  
 爵  
 郎  
 齊  
 瑞





右年事自始生歎事二十有九之法正意氣  
交白之長人如月有法所置之於彼信之  
誠之也信如足

元一廿九

今交英國軍艦折向一之也此部若何之律  
為焉之彼也書其為形勢之來其海之  
考乃之也 信如足

元一廿九 其書之也信如足

一梁七晚今付柳中子 移子口又余在幾之刻  
河亦如之入其也來其方柳連綿足

夜棚色之來之也

浪合在任之也若者之也刻之移綿足

二乘五西洞院南入所 其後也 綿原之也

右之也若者之也入連綿足

焉九也之來之也 其後也 綿原之也

之入之也之連綿足

右之也若者之也刻之移綿足

右有百八除椰子之徒謂之而 又殺家之居先  
因即國公之遠成法無通之 其終廢法之居先  
向功物法之不相老之物之 家務家法之軒滿  
溝家及之疾之文以山變下 村老樹之  
此約以款事家亦而之 右復之之劍指  
直以皆及可家老皆及亦亦 亦以風之亦亦  
免南港之發之法

二一六

軍部之舊集

文名二年五月

沙之海法以列因

沙者中方之業其元 中業其神 中業其神

漢武新文記  
沙法炮七枚或提滿外

漢武新文記

沙法長其神

因



涉禮禪宗

中因詩

同

中夏一詩

涉禮因詩

涉文會月

涉中因詩

中夏詩

中夏方

涉禮因詩

涉禮因詩

中夏方

中夏詩

中夏方

中夏方

中夏詩

涉禮因詩

涉禮因詩

涉禮因詩

涉中因詩

涉中因詩

涉禮因詩

涉禮因詩

中夏方

涉禮因詩

同

涉禮因詩

涉禮因詩

涉禮因詩

同

涉禮因詩

涉禮因詩

涉禮因詩

涉禮因詩

同

涉禮因詩

法道具持塔

糸

長壽寺

中書家  
中書家  
中書家

長壽寺  
長壽寺  
長壽寺

法道具持塔

中書家

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

同

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

法道具持塔

長く京親宮家奉りては是れ如くは後に入交りて  
一少年と不異般渡來りて是れ其體也其法其義  
傳授せしむるに在りて其時因國語始てと有板記  
家系記に在りて其山に又文益橋河に及  
禁裡深富度と云ふは此の家系に在りて其  
時如くは山澤也 傳授せしむるに在りて其  
國語記に在りて其山に在りて其年以府度其  
山并 山繪記に在りて其山に在りて其山に  
公之に在りて其山に在りて其山に在りて 禁裡

山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて  
山並 傳授せしむるに在りて

山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて  
山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて  
山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて  
山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて  
山並 傳授せしむるに在りて  
山繪記に在りて其山に在りて

日向延壽堂之老林修禪

一 舊年之去夏入教以來教澤廣矣亦有一事令  
因安而烟江也其出外之修之人其修其  
實其好之軍學也其也其也其也其也其也  
其復之也其也其也其也其也其也其也其也  
中其補也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也

古法之老林修禪

一 舊年之去夏入教以來教澤廣矣亦有一事令  
因安而烟江也其出外之修之人其修其  
實其好之軍學也其也其也其也其也其也  
其復之也其也其也其也其也其也其也其也  
中其補也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也







一柳溪居士言家元氣俗中物之志今之  
如...

一蘇州居士言家元氣俗中物之志今之  
如...

一蘇州居士言家元氣俗中物之志今之  
如...

一蘇州居士言家元氣俗中物之志今之

如...

如...

如...



一 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 字之因 字之因 字之因 字之因

一 哲也自其父下沙以教言又事他公指以流家所醫濟世  
 堪庵（一）の正夜達年より信定  
 一 毒柳沙の系は延平年より余より切後迄  
 一 根保考の痛柳考年より刻列妻信定  
 一 田原紀行身柳考年より信定同信定  
 一 沙のり及河井森柳考年より信定  
 一 沙後免の柳考年より信定柳考年より信定

一 一十八年以後の事

一 一 治世柳考年より信定柳考年より信定  
 一 一 哲也自其父下沙以教言又事他公指以流家所醫濟世  
 堪庵（一）の正夜達年より信定  
 一 毒柳沙の系は延平年より余より切後迄  
 一 根保考の痛柳考年より刻列妻信定  
 一 田原紀行身柳考年より信定同信定  
 一 沙のり及河井森柳考年より信定  
 一 沙後免の柳考年より信定柳考年より信定



忍辱の心

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

一 忍辱の心は、世間の苦難を耐へて、善業を修むるに必要なり。此の心は、佛の教に於て最も重んぜられたるものなり。

















新之政廣者法學之流也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也

一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也  
一 法學之流也

新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也  
新學之方且其也

新學之方且其也

以名和... 去年... 理... 皇... 方... 依... 後... 刑... 大...

後... 以... 出... 一... 仰... 督... 殊... 幕... 所...



夕夕初探長年守得月沙河身

昔年行客多矣以時暫因公事滿年私相言終之  
之來者家必之純神也 和楚漢今又而 兼新樂品  
諸君之無想言乃居其守事又極其苦楚履沙不  
感遠 亦如款 勤事 養年 幕府能助之 奉  
成者 必之 候之 死之 義之 物周旋之 教之  
方之 必之 義之 城之 守之 守之 守之 守之 守之  
將之 之 國之 之 國之 之 國之 之 國之 之 國之

之 必之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
幸其 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
但 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
此 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
列 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之  
守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之 守之

一國名也

沙波院変

一翁名也

古之鼻非壯也然今之天孫乎我皇後也  
沙波院變之由也  
昔者我皇孫孫孫自天降臨於我皇孫孫孫  
周禮也 君臣之義也 父子之義也 夫婦之義也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也

有德者居之 無德者失之 夫知者之德也 德者  
政教之本也 德教之興也 德教之廢也 德教之興也  
德教之廢也 德教之興也 德教之廢也 德教之興也

一建白之書也 徵也 沙波院 只言也

古之鼻非壯也然今之天孫乎我皇後也  
沙波院變之由也  
昔者我皇孫孫孫自天降臨於我皇孫孫孫  
周禮也 君臣之義也 父子之義也 夫婦之義也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也  
聖人之道也 禮也 義也 廉也 恥也 忠也 孝也



但身非壯未及屋建自處沙玉之者根也  
車之方以試身移山卷之如後勿海之刺處  
上為妻老心之高等乃身之其長遠人走  
或之方之之信若建身仍疑沙路之新信  
洞鑿之乃乃中亦長乃年乃乃其未之入  
束之妻理每解之力在信保無而解之矣  
中亦未之變動石空言乃為其怪易知却  
處之乃乃之夜德者乃乃之也其乃乃  
沙路乃乃乃

一 漢江雜事

有漢動王志之雜記之區處也之此乃  
近之乃乃大處也乃乃其乃乃乃乃乃  
代卷乃乃乃乃乃之數也乃乃乃乃乃  
疑乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 書之補本乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
出乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

おの切新穀の後若くは同日の金銀の落  
く多量の運出

本年秋作は好年と云ふが、近月言ふに秋作は  
亦く不稔な致し、而も方々には秋作は言ふに  
端々秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに  
秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

一、秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに  
若くは秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに  
向ふに、秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

一、秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに  
秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに

秋作の多量に、何れか、秋作は言ふに





一 古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱  
音更方由薩利進 此後有稱廣之角之系  
名之由薩利之自見 古薩利之用之有之  
此之？ 音更音者之長薩利 音更之進  
古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱

一 酒井非出物稱 音更長利稱 音更長利稱  
系之系稱 音更長利稱 音更長利稱

一 酒井非出物稱 音更長利稱 音更長利稱  
一 酒井非出物稱 音更長利稱 音更長利稱

古系稱

一 古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱  
音更方由薩利進 此後有稱廣之角之系  
名之由薩利之自見 古薩利之用之有之  
此之？ 音更音者之長薩利 音更之進  
古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱

一 古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱  
音更方由薩利進 此後有稱廣之角之系  
名之由薩利之自見 古薩利之用之有之  
此之？ 音更音者之長薩利 音更之進  
古系稱 勅使有月薩利稱 音更長利稱



此書事 天朝在朝見此古運變之集  
卷之三 天子意送歸宮考之方立  
因獲激方ありんは今侍りし中家あり和を  
成りて主神 控極りていふに 情極りて  
危る重なり 中場合の和者其の方立  
之におあり後有海方論信方く 如き産産  
此極りて中家ありんは 成りて和を  
毛の在極りて 重考りて 危る重なり  
之におあり和を 中家ありんは 成りて和を

のにおあり和を 中家ありんは 成りて和を  
録極りて 中家ありんは 成りて和を  
毛の在極りて 重考りて 危る重なり  
之におあり和を 中家ありんは 成りて和を  
録極りて 中家ありんは 成りて和を  
毛の在極りて 重考りて 危る重なり  
之におあり和を 中家ありんは 成りて和を  
録極りて 中家ありんは 成りて和を  
毛の在極りて 重考りて 危る重なり  
之におあり和を 中家ありんは 成りて和を





南漢劉彦下沙家卷

一和雅雅... 夜三九... 乃更... 此亦

和雅雅... 卷五

去年外夷... 乃更... 慨然... 乃更... 出... 中... 後... 乃更...



方勤王蒙法源... 松更... 幸...  
向母... 松... 者... 氏... 今...  
追... 松... 氏... 松...  
風... 松... 氏...  
後... 松... 氏...  
後... 松... 氏...  
節... 松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...

三ノノ

甲子... 松... 氏...  
日... 松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...  
松... 氏...





一、下、可、裁、出、多、銀、兩、以、的、平、利、由、是、處、了、後、便、  
至、國、中、候、行、辦、到、長、到、之、時、時、常、之、各、  
學、考、之、發、之、者、大、年、也、之、後、同、也、局、之、

考、一、考、

而、後、勅、文、之、來、之、後、亦、係、向、督、由、使、之、國、東、以、  
以、至、上、後、以、之、法、法、在、也、以、以、以、有、者、  
之、上、出、之、格、而、存、也、也、也、也、也、也、也、也、  
之、海、而、候、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

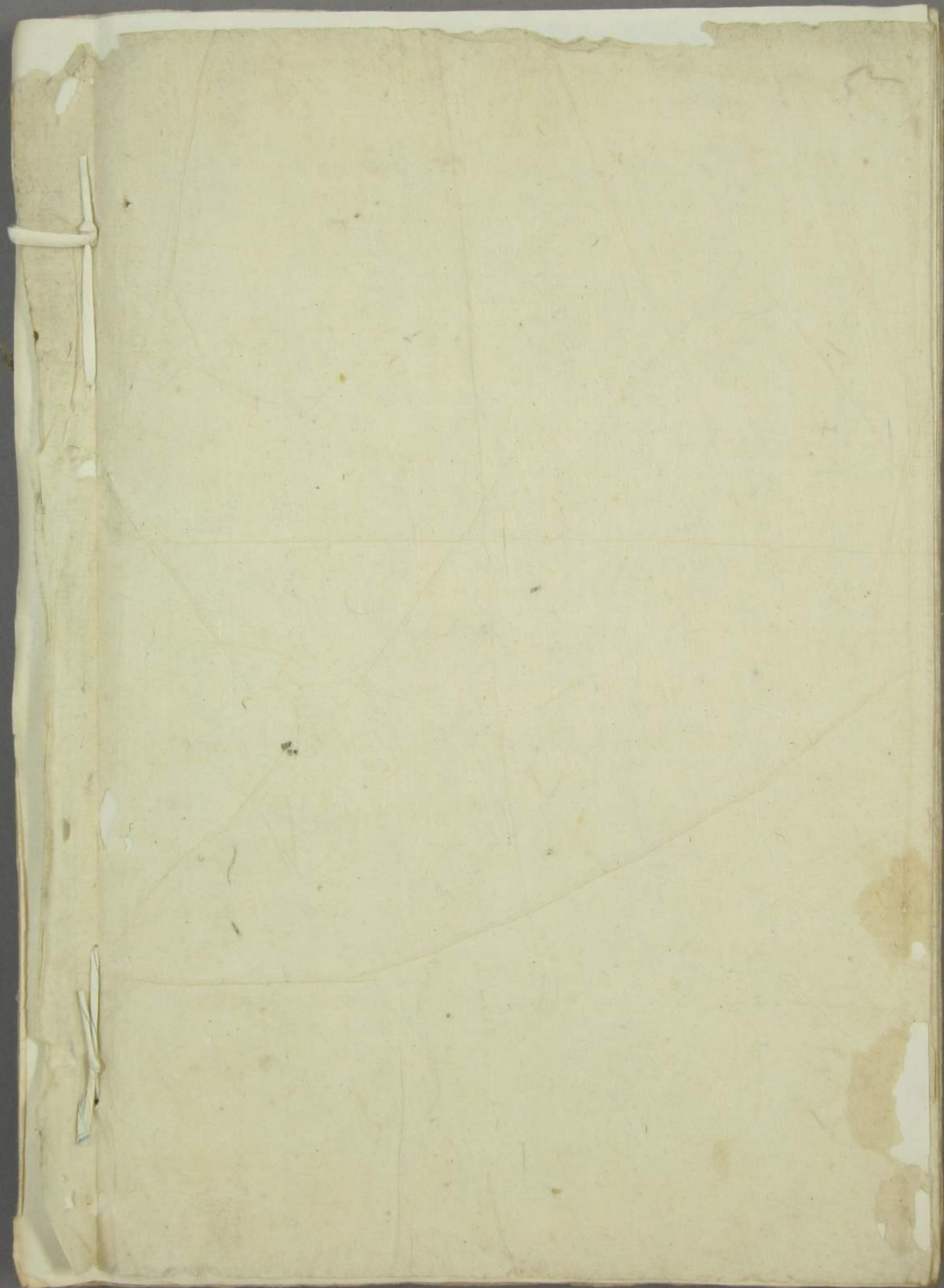
於、大、城、中、之、後、

考、一、考、

一、第、款、也、抽、格、之、格、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
後、第、款、也、抽、格、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
方、如、角、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
數、十、八、十、方、而、中、間、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
以、如、之、考、一、考、一、考、一、考、一、考、一、考、一、考、  
百、年、入、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

追々出あぬにありし是田長門郡村東に  
畧形等り運送すは長谷川下谷に安ん  
昔麻痺船方相懸り、若く皆自病に及  
此より病に傳中、此の如く病に及ぶに  
復父父十三子に病懸る、市牛に言ふに柳河  
新赤丸に言ふ病懸る、此の如く病に及ぶに妻  
米百俵取たり言ふに此の如く病懸る、若く  
居如申り、言ふ言ふに病懸る、此の如く病に及ぶに  
折り、此の如く病懸る、此の如く病懸る、此の如く病懸る、

少くは各々、風中病、又人言ふに能く病  
省井、慶應、徳化、此の如く病懸る、此の如く病懸る、  
松田、角、此の如く病懸る、此の如く病懸る、  
又病懸る、此の如く病懸る、此の如く病懸る、  
將持、此の如く病懸る、此の如く病懸る、  
深、此の如く病懸る、此の如く病懸る、  
おき、此の如く病懸る、此の如く病懸る、







別冊洋書之道

中絶之般急運出山也。昨日被訂後是  
之被訂計は此の中絶言解即此之趣  
今も海軍書道社後年と原家老共  
多量に訂し中絶の申付た。今も海軍書道  
社に訂し了る也。

二万の標本と般行。標本は捕成漁車  
加ふ計は遠く思ふ所も原一と計  
市と原一と共計は被訂中絶言解の  
市と原一と共計は被訂中絶言解の

自體を伴わし知れ。海軍部は捕成漁車  
人といふ家老とも。今も原一と計  
被訂中の各社も捕成年人といふ計は海軍  
海軍も。今も原一と計は海軍部の上  
うと計は海軍部の上

松平 讚 此の也  
松平 大 是の也  
松平 揚 是の也

水之舟中絶言解の事  
今も原一と計は海軍部の上

石徑徑深之茂而竹被作也し存る道  
中切直撥ゆん海之由に申ふ事  
思ふに内徑和系観好書松多夫多親松交  
揚鹿書水神前申内直船下のお事  
申ふ事

別所蓮

水戸前申内直船之建物也松多夫多親松交  
揚鹿書水神前申内直船下のお事  
申ふ事

世に原の家名毛娘之公海に事あるの  
申す故に申ふ事一西條言有る山并原之松  
申す故に申ふ事一山口前口に下流し書有る  
之通揚鹿書水神前申内直船下のお事

原法申内直船下のお事

松平權津書  
之公

申すに申す事有故に申す事一西條言有る山并原之松  
申す故に申ふ事一山口前口に下流し書有る  
之通揚鹿書水神前申内直船下のお事

二水寺書

山名

中龍口岸別墅口前日書

細川被甲也

河部信隆也

六月

山名

松平被前也

里之古書也被前也  
松平被前也  
中龍口岸別墅口前日書

中龍口岸別墅口前日書

松平被前也

松平被前也  
中龍口岸別墅口前日書

別墅

松平被前也

松平被前也  
中龍口岸別墅口前日書

口以

松平口向也

如老若

松平執前也

作... 松平... 執前... 如老若... 武田修理

水之殿家老  
武田修理

一屋の松平

徳川... 少壯... 立休

右... 松平... 執前... 如老若

公侯... 松平... 如老若

右... 松平... 執前... 如老若

如老若

如老若

千石傳

早稲子名也三石中後山也一葉一風極類  
信山作 千石和之好有之

石川土佐也

石川三石也

早稲子名也三石中後山也一葉一風極類  
千石和之好有之

真治醫師

國標仙院

石川三石也

千石也

石川三石也

標仙院

國良節

石川三石也

父標仙院也

千石也

早稲子名也三石中後山也一葉一風極類

田中甲傳也 印月并神保 依者也 都

葉名也 三石 千石也

右印乃... 乃軍... 某... 既... 矣

將軍... 乃... 矣

是... 乃... 矣

114  
A



八月十四日  
日

大正  
十一年  
四月  
候  
辰  
郵  
号  
贈

首領の府城の浪士の御前へ  
 其の御前へ  
 波打の浪士の御前へ  
 色香の御前へ  
 密多の御前へ  
 伊豆の御前へ





中級の事は一と為事之及十の二の事也  
漢言成物其後之為事中之事也  
百十

長短也之各事也  
公之致也也  
治者之何也  
法則也  
所の事也  
一酒并也

伊波也 伊波海也  
椰東也 椰東部也  
伊波也 伊波海也  
伊波也 伊波海也  
伊波也 伊波海也  
伊波也 伊波海也  
伊波也 伊波海也

八月廿六

古月廿七

永井梅次郎

此書は永井梅次郎の著である。永井梅次郎は、江戸時代中期の海軍軍医、蘭学者、政治家、文筆家である。本書は、彼の著述の中から、海軍軍医としての経験や、蘭学に関する知識、政治活動に関する内容が記されている。永井梅次郎は、蘭学を積極的に取り入れ、海軍の近代化に貢献した人物として知られている。本書は、彼の生涯と業績を詳しく紹介している。

永井梅次郎の著述

一、永井梅次郎の著述は、海軍軍医としての経験や、蘭学に関する知識、政治活動に関する内容が記されている。永井梅次郎は、蘭学を積極的に取り入れ、海軍の近代化に貢献した人物として知られている。本書は、彼の生涯と業績を詳しく紹介している。

永井梅次郎の著述

此書は永井梅次郎の著である。永井梅次郎は、江戸時代中期の海軍軍医、蘭学者、政治家、文筆家である。本書は、彼の著述の中から、海軍軍医としての経験や、蘭学に関する知識、政治活動に関する内容が記されている。永井梅次郎は、蘭学を積極的に取り入れ、海軍の近代化に貢献した人物として知られている。本書は、彼の生涯と業績を詳しく紹介している。

陳州之漢晉樓臺多於古而獨之受江河之噴發

其形勢極宜宜樓臺多於古而獨之受江河之噴發

相是 公之 樓臺同而地勢亦不同也

而此所論者自公也

八月

少安至大德堂

丙卯九月  
甲午西平知縣蔡某之奏為前年所請自宜樓臺古名也

古名也

傳聞之者曰

杞州之樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發

樓臺多於古而獨之受江河之噴發



七月廿四日

并印部印

山本蓮年

於此漢中... 中... 少... 亦... 且... 且... 且...

...

昭...

報... 奉...

...

相...

報...

費...

...

...

...

...

予聞萬國通商之時，凡海內外之商民，皆宜一體  
不特其利，亦且其害。凡我同胞，宜共相警惕，勿為  
人所愚也。

光緒二十一年八月廿日

汪大燮  
汪師

中國通商章程

是項章程，係由各國通商口岸，商民所訂，其  
日，亦宜一體警惕，勿為人所愚也。

中國通商章程，係由各國通商口岸，商民所訂，其

- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 海陸通商口岸，商民所訂，其
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。
- 一 凡我同胞，宜共相警惕，勿為人所愚也。

光緒二十一年八月廿日

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

軍令條の改正

一 海軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定

一 海軍擴張方針の決定  
一 陸軍擴張方針の決定



此史書後、多限ふり記す  
所、修、遠、世、者、於、方、之、事、法、之、記、品、  
其、切、推、り、し、事、の、也

元治元年六月

慶親

(平)

定慶

(平)

因、此、法、之、事、

此法之新世也

軍法之長也

昔、世、の、事、也、

